

◎ 3年生 | 「漢字の意味(同訓異義語)」「送りがな」「くわしくする言葉」「辞書の引き方」など

3年生の言語事項の総点検 ～ 「い」 のつく漢字みつげ～

「一つひとつの『言葉』に向き合い、
その意味を考えることの大切さを学ぶ」

国語の授業と言えば、「読み」の学習と考えている先生も多いようですが、3年生の「言語事項」の内容は、国語科教育の根底を支える「基礎・基本」とでも言うべき重みをもっています。

例えば、漢字テストで満点を取るような子どもでも、ふだんのノートは平仮名ばかりだったりすることがありますが、それは、その子にとって「漢字」とは「平仮名の代わり」に過ぎないからです。

子どもが、漢字の果たす役割や意味を理解すること、つまり表意文字としての「漢字」に気づくことが必要であることは明らかですが、「言葉」に向き合う姿勢を育むことこそが重要なポイントです。

「い」 のつく漢字みつげ

漢字や言葉の意味を考えさせながら、3年生の言語事項の復習ができる、便利な授業を紹介します。

まず、教科書の巻末資料などを利用して、3年生までに習う漢字の一覧から、「送り仮名が「い」で終わる漢字を見つける」という学習活動を行ってみましょう。

送り仮名が「い」で終わる漢字には、「幸い」「問い」などの名詞も含まれます。また、時計の「計(ケイ)」などと、音読みと訓読みの区別がつかない子どももいるかもしれません。まず、「音読み」「訓読み」の区別と、様子や状態を表す言葉(くわしくする言葉)であるかどうかを確認することから始めましょう。

◇ 「例えば、どんな時に使いますか？」

用例を問うと次のような例が挙がりやすいです。

「青い」→「空」(くわしくする言葉)

「空が」→「青い」(主語と述語)

特に「何が、どんなだ」という主述の文型は、子どもの認識が薄いのでここで押さえておきましょう。

(学年配当)	2 多い ←→	2 少ない	それ以外のまとまり	
1 青い	3 暗い ←→	2 明るい		
1 赤い	3 寒い ←→	3 温かい		
1 白い	↓	1 大きい		
2 黒い	3 暑い ←→	↓		
	2 太い	1 小さい		
「い」のまとまり	1 早い	2 細い		2 細かい
	3 速い	3 苦い		3 苦しい
	1 円い			
	2 丸い			
	2 広い	3 深い	2 楽しい	
	2 強い ←→	2 弱い	3 悲しい	
	2 近い ←→	2 遠い	2 親しい	
	2 長い ←→	3 短い	3 美しい	
	3 軽い ←→	3 重い	3 等しい	
	2 高い ←→	3 安い		
	2 古い ←→	2 新しい	「い」のまとまり	
	3 悪い ←→	1 正しい		

少し練習した後に、「はやい」を使った用例を問えば、同訓異義語の学習に移行することができます。

「朝が」→「はやい」(早い-時間)

「車が」→「はやい」(速い-スピード)

◇ 何か気がついたことはありませんか？

「い」と「しい」などの違いを見つけた子どもの発言から、「送りがな」についての確かめを行います。

・「くるしい」は、「苦い」「苦しい」のどちら？

・「細い」は、「ほそい」「こまかい」のどちら？

また、多くの子どもは、反対の意味を表す言葉を見つけますので、それらを上表のように並べて示し、ここに出てこない言葉や漢字も含めて話し合います。

・「広い・深い」の反対は？→「せまい・あさい」

・「高い」の反対は、「ひくい」？「安い」？

・「楽しい」や「等しい」の反対は何だろう？

本単元の学習に際しては、つねに辞書を傍らに用意させておきましょう。意味や用例を調べたり、類語や対義語を見つけたりするなど、子どもたちは、辞書の使い方を実感できるはずですよ。